１部　神との人格的関係の確立

１章　人格的応答者としての人間

前提：人間の存在を、神に対する人格的応答者として理解する。

「神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」

（創世記一章二七節）

●神のかたちとは何か？

「神のかたち」とは人格である。それは、神への人格的応答者という意味である。

人格的とは、「自分で考え、自分で判断し、自分で選び、その結果を得ていく」という主体性のことである。人間には自由が与えられている。それは考える自由、判断する自由、選択する自由、すなわち人格的自由である。考えて、判断して、選択すると、そこに結果が現れる。その結果がその人の人生となる。

神への人格的応答とは、この人格を神に対して表現することであり、また神の表現を受け取ることである。

●人格とは、他者との関係の中に現れる

人間の存在は実体にあるのではなく、他者との関係の中にある。（J・フーストン）

～機械的関係（宗教的関係）から、人格的関係へ～

神と人との関係

男と女との関係　夫婦の関係　（父性と母性）

他者との関係

●傷ついた人格　　創世記３章１節～13 節

人格は「神のかたち」であるから、神との関係が傷ついた時点で、その人格は傷ついてしまう。

傷ついた人格の構造

感情―恐れ　　行為―隠れる　　さらに防衛のための自己義認へ

傷ついた人格の諸相　　最大の問題点――神との人格的関係が損なわれる。

人格の抑圧

人格の暴走

●人格の回復　　聖化

完全なる神のかたちであるキリスト（コロサイ１：15）。

このキリストと同じかたちに変えてくださる聖霊の働き（2 コリント３：18）。

三位一体の神との人格的関係に生きることが、人格の回復をもたらす。

言葉によるコミュニケーション　個人的：聖書と祈り。教会として：礼拝と交わり。